

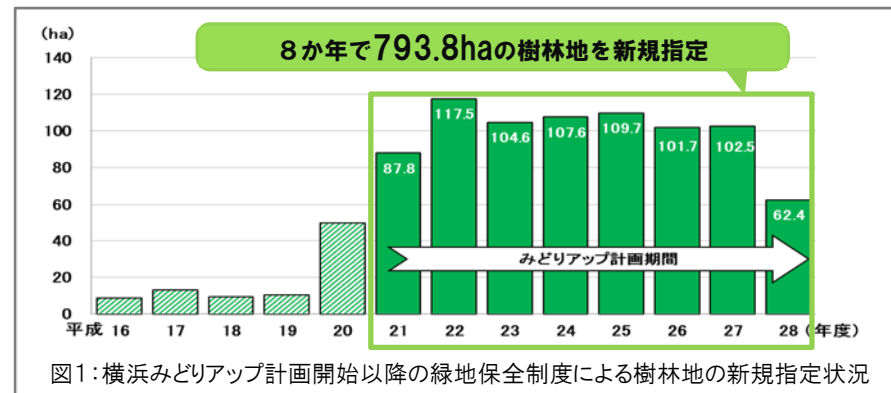
# これからの緑の取組の検討の方向性について

## (1) 考慮する事項

### ① これまでの取組の成果・課題

#### 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

- ・みどりアップ計画開始以降、793.8haの樹林地を緑地保全制度により新規指定 (H21-H25: 527.2ha、H26-H28: 266.6ha)
- ・着実に指定を進めてきた一方で、未指定の民有樹林地は約1,500ha残っている
- ・比較的小規模な樹林地で指定の働きかけを進めている案件が多くなっており、大面積での指定案件は少なくなっている
- ・緑地保全制度による指定地での買取りの希望に対して確実に対応し、191.6haの樹林地を市有地とした (H21-H25: 124.6ha、H26-H28: 67ha)
- ・これまでの指定推進により、今後買取りが発生する可能性のある既指定樹林地の総量は約450ha (H28年度末)



#### 柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

- ・120.8haの水田に対して水田保全奨励を実施
- ・これまで37.3haの農園の開設支援・整備を進め、市民が農とふれあう場が着実に増加した

#### 柱3 市民が実感できる緑をつくる

- ・地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する「地域緑のまちづくり」は35地区で進展
- ・国内外から多くの観光客が訪れる都心臨海部で、まちの賑わいを生み出し、観光・MICEにも貢献する緑花の創出が進展
- ・これまでに創出した公共施設の緑や、多くの市民や観光客が訪れる都心臨海部での緑花など、引き続き質の高い維持管理をすることが必要
- ・民有地緑化助成は、平成26年度にさらに内容を拡充したが、助成実績が伸び悩んでいる

#### 効果的な広報の展開

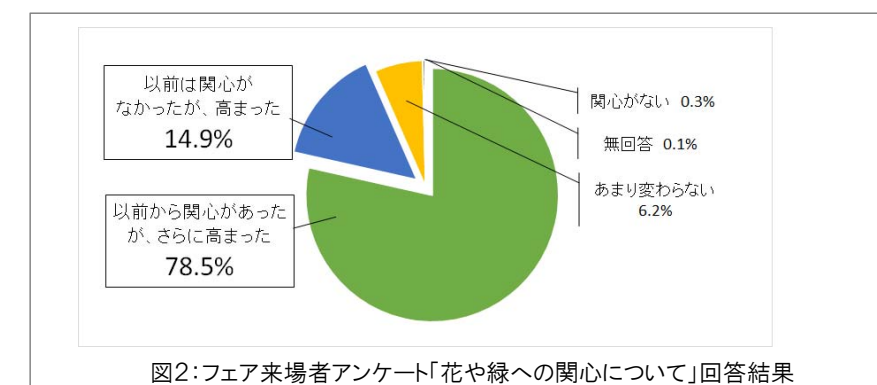
- ・「横浜みどりアップ計画」を知っている 約42% ・「横浜みどり税」を知っている 約45%  
(平成28年度「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査より)

### ② 市民の声

- ・取組の柱ごとに数多くの事業が着実に推進されている
- ・樹林地の緑地保全制度による指定面積の数字だけでは成果を実感しにくいので、保全施策の成果をどのように見せていくかが今後の課題
- ・市民の森は、よく手入れされているが、それ以外に管理されていない里山も多くある
- ・緑は、買い取った後の維持管理が重要な課題だと考えている。都市全体で、良質な緑を担保しつつ、まちづくりをすることが大切
- ・樹林地所有者への維持管理の支援策を充実させる必要がある
- ・多様な農園があることで、市民の様々なニーズに応えることができるので、今後も推進してほしい
- ・全国都市緑化よこはまフェアの会場では、きれいな緑花が生み出されたが、フェアの期間だけで終わらず、期間後も定着させてほしい

### ③ 近年の社会情勢の変化等

- ・平成28年に本市の水や緑を一体的にとらえた総合的な計画である「横浜市水と緑の基本計画」を改定し、「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」を目標像に掲げた
- ・人口減少・少子高齢社会を迎えている一方で、宅地開発や土地利用の転換などは今後も一定程度継続すると考えられる
- ・平成29年6月に「横浜市気候変動適応方針」を策定した
- ・都市農業振興基本法 (H27.4 施行) に基づく、都市農業振興基本計画 (H28.5 策定) により、改めて都市農地の多面的な機能が評価された
- ・全国都市緑化よこはまフェアの来場者数は600万人を超え、花や緑により、多くの観光客を市内外から呼び込むとともに、地域での花や緑に関する活動が活発に行われた
- ・フェアをきっかけに、市民の花や緑に対する意識や関心が高まった (フェア来場者アンケートで「高まった」と回答した人が約93%)



## (2) これからの緑の取組の検討の視点

- ① 緑豊かな横浜の環境を次世代に引き継ぐため、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、計画の理念や目標像、基本的な枠組みや主な取組は継承
- ② 保全した樹林地・農地や創出した緑や花が増えており、緑の多面的機能が発揮できるよう適切な維持・保全・活用を推進
- ③ 全国都市緑化よこはまフェアの成果を生かし、市民が緑を実感でき、まちの魅力を高める取組を強化

## (3) 柱ごとの方向性

### ① 森の保全・育成に関する施策（現行計画：柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む）

都市における森には、良好な景観の形成、ヒートアイランド現象の緩和、地球温暖化の適応策としての浸水対策などの防災・減災、市民のレクリエーションの場など、多くの役割があります。この多様な機能を一層高められるよう、森の保全、育成、活用に取り組みます

#### <具体的な取組の方向性>

- ・緑の 10 大拠点内の樹林地や、市街化区域内の身近なまとまりのある樹林地の指定を重点的に推進。近年の新規指定実績や土地所有者一人当たりの樹林地面積が小規模化している状況などを踏まえ、指定目標を設定
- ・相続などの際の既指定樹林地の買取り希望に着実に対応
- ・樹林地の多面的機能を発揮するために、地域の特性にあわせた管理を引き続き実施
- ・土地所有者の維持管理負担の軽減及び指定促進のため、樹林地の安全対策等も含め、維持管理に対する支援を充実

### ② 農に関する施策（現行計画：柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる）

農地は、新鮮な農畜産物の供給の場であることに加えて、里山などの良好な景観の形成、大雨の流出抑制や災害時の避難場所になるなど防災・減災の役割も有しています。さらに、農業体験や学習、交流の場などとしての活用も期待されています。このような農地の役割に着目しながら、市民が身近に農を感じる場や機会をつくる取組を進めます

#### <具体的な取組の方向性>

- ・都市農業推進プラン(※1)に基づく取組とあわせ、水田の保全や市民農園の開設支援、地産地消などの取組を継続
- (※1)都市農業推進プランについても、平成 31 年度以降の取組について検討を進めます

### ③ 緑花に関する施策（現行計画：柱3 市民が実感できる緑をつくる）

まちなかの緑や花は、美しく潤いのある景観を形成するとともに、まちの魅力や賑わいづくりにも貢献します。また、緑や花をきっかけとした様々な地域活動も行われています。全国都市緑化よこはまフェアの成果も継承しながら、多くの人が訪れる市街地や、生活に身近な住宅地などでの緑や花の創出、育成を進めます

#### <具体的な取組の方向性>

- ・全国都市緑化よこはまフェアをきっかけとした『魅せる』花や緑、街路樹によるまちの魅力・賑わいづくりを強化。また、緑に関する市民の関心の高まりを継続するため、区と連携した取組を実施
- ・地域コミュニティの活性化にもつながる、地域での身近な緑の創出を継続

### ④ 効果的な広報の展開

- ・戦略的な広報の展開により、市民の認知度を高めるとともに緑の取組に対する理解を広げ、市民の主体的な参加へつなげる

## (4) 今後のスケジュールについて（予定）

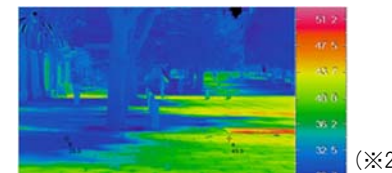
本日いただいた御意見や、横浜の緑に関する市民・土地所有者意識調査の結果などを踏まえ、平成 30 年 1 月以降の環境創造審議会にて、「これからの緑の取組（素案）」を報告する予定です。

年度	月	
H29	5 月	【市会 2 定】3か年の事業・取組の評価・検証
	6 月	
	7 月	横浜の緑に関する市民・土地所有者意識調査
	8 月	
	9 月	【市会 3 定】「これからの緑の取組」の検討の方向性を報告
	10 月	環境創造審議会へ「これからの緑の取組」の検討の方向性を報告
	11 月	
	12 月	【市会 4 定】「これからの緑の取組(素案)」報告
	1 月以降	「これからの緑の取組(素案)」に対する市民意見募集 環境創造審議会へ「これからの緑の取組(素案)」報告

## 【参考】緑の多面的機能

### 環境保全機能

ヒートアイランド現象の緩和、大気浄化、騒音防止、防塵等の効果で、都市の過酷な環境を改善し、市民の生活環境を保全



(※2)

### 生物多様性保全機能

樹林地や農地が、健全に保たれ、まとまりやつながりを持つことで、生物多様性を保全



### まちの魅力を高め、賑わいをもたらす機能

都市の中の魅力的な緑や花により、賑わいの創出や不動産価値向上など、都市全体の魅力向上に寄与



### 景観形成機能

快適で美しく潤いのある都市景観や自然と歴史に基づく個性と風格ある都市景観の形成に寄与



### 貯留・涵養機能

樹林地や農地などの緑は、雨を大地にしみ込ませ、蓄えることで、河川や地下水の水量を豊かにし、健全な水循環に寄与



### 防災・減災機能

雨水のピーク流出量を抑制して浸水被害を軽減。また、オープンスペースとして避難場所や火災延焼防止の機能



(※3)

### 環境教育・コミュニティ機能

次世代を担う子どもたちの自然体験の場と機会を提供し、住民の交流の場となり地域コミュニティの強化に寄与



### レクリエーション機能

散策や農体験など多様なレクリエーション利用を通じた市民の身近な遊び場、憩いの場、健康づくりの場としての機能



(※2) グランモール公園での熱環境調査の写真  
：赤いほど温度が高く、青いほど低い

(※3) 国土交通省資料より、阪神淡路大震災の神戸市長田区大國公園の焼け止まり効果  
：赤円が公園、公園から左下側のまちは火災を免れた